**1921年(大正10年) 第一次世界大戦期 大正デモクラシー期**

第一次世界大戦の終結で、活況に次ぐ活況で沸き返った産業界で大規模なリストラが始まり、大正9年の日本社会は騒然となる中、3月には皇太子（後の昭和天皇）が初の外遊として欧州に船に乗って旅立たれ、9月に帰国されるまでの半年間、海外で歓待される華やかなニュースが日本に届けられることとなった。一方、庶民の生活は、前年に出版された「死線を越えて」（賀川豊彦・著）がベストセラーになるほど厳しく、同年5月2日には上野公園で労働者約１万人が参加して日本初の本格的なメーデーが開催され、「失業の防止」「最低賃金法の制定」「シベリア撤兵」「治安警察法17条の撤廃」などの動議が決議され、終了後にデモ隊と警察隊とが激しく衝突する騒ぎにまで発展した。皇太子の帰国後の11月には首相の原敬が東京駅でテロにより暗殺され、その葬儀後に、立憲政友会を与党に第20代の高橋是清内閣が組閣、内閣誕生のおよそ二週間後に、病弱の大正天皇に代わりその職を行うべく皇太子が「摂政宮」となられることとなった。

【参考年表】

2月

政府は「皇太子妃は内定通り変更がない」旨を発表（宮中某重大事件）

3月

皇太子の初の外遊に出発

6-7月

神戸で川崎造船所・三菱造船所の大労働争議が起こる

7月

中国にて第一回共産党大会（上海）

9月

皇太子の外遊帰国

11月

原敬の暗殺

高橋是清内閣の組閣